

令和4年度 施策レビュー(二次レビュー) 改善提案への対応状況

1 基本情報

施策名	5-1-2 生活の質を高める文化・芸術活動の振興		
実施日／グループ	令和4年7月31日(日) グループ②	施策担当部	地域振興部
作成日	令和5年2月13日	記入責任者	地域振興部長 大西 誠樹

2 施策の対応状況

(1) (二次レビュー以前) 施策の実現に向けた課題認識、対応の方向

<課題認識>

- ① 施設の老朽化により、本市での文化活動を行う団体が減ることは、文化活動に触れ合う機会が減り、文化衰退につながる一因となる。
- ② 市展において、一定の出品者数を維持できているが、高校生をはじめとする若年層や壮年層の出品者数の増加に向けて新たな取り組みが必要である。
- ③ 展示会の来場者数については、コロナウイルスの関係で減少傾向にあり、来場者を増加させる取組みを検討する必要がある。
- ④ 新型コロナウイルスにより、文化鑑賞の機会や発表の場が減っている。
- ⑤ ジュニア世代の全国大会等への派遣費補助等、制度について周知し、幅広く活用を呼び掛ける。

<対応の方向>

- ① 施設や設備等の老朽化については令和4年度から厚生会館の検討に着手するとともに、美術館では設備等の改修を行っていく。
- ② 公募展では出品者の増加を図るため、大学・専門学校等への案内の徹底を図るとともに、市内出品者数が増えるよう各高校への周知等を行っている。
- ③ コロナ禍の状況下で会場に足を運ばなくても自宅で作品を鑑賞できる、「おうちで太清賞」を実施する。
- ④ 来場者数の増加を図るために、SNS や PR 方法の検討や、専門誌等への有効な広報活動を行う。
- ⑤ ジュニア派遣やジュニア文化賞について、市内各高校等を巡回し、制度の説明を行い、申請の呼びかけや、内容説明を行っている。

(2) 二次レビューでいただいた主な指摘事項、改善提案等

- ① 政策に掲げる生きがいづくりとしての「文化芸術活動」の幅広いジャンルと捉え方と、担当課の認識のズレが大きい。
- ② すでに文化に親しんでいる人に対しては意識が広がっていくが、新たな取組みを考えていく必要がある。
- ③ 政策目標の成果指標である文化芸術活動実施率について、継続的・定期的にアンケートを行うなどの計画がない。成果指標をきちんと設定し、経年変化を把握しないと施

策の有効性を評価できない

(3) 外部からの改善提案等を踏まえて検討した見直し事項

- ① 文化の捉え方や、文化のめざす方向性、プロセス等について整理する必要がある。
- ② 現在、新文化ホールの基本構想・基本計画策定を進めており、本市の文化のあり方やめざす方向性等についても、検討を進めており整理をしていく。
- ③ 具体的には政策目標の成果指標について、再度文化振興の意義を考え、適切な指標となるよう検討をおこなう

(4) 予算要求、査定結果を踏まえて、次年度に向けた課題の捉え方、改善点、取組みの方向性等

- ① 既存の芸術等文化を残しつつ、若者の芸術等文化を知り、支援や発表の場を提供する。
- ② 展覧会で表彰されたことを誇りに、もっと高みをめざしたいというモチベーションにつなげるようにする。
- ③ より生活の場に身近に文化芸術等に触れ合えるようにする。
- ④ 今の生活スタイルを踏まえた芸術等文化の検討

3 改善提案等を踏まえた主な事業の対応状況

**(1) 新文化ホール計画策定事業
文化振興関連事業**

- ① 既存の芸術等文化を残しつつ、若者がおこなっている芸術等文化を知り、支援ならびに発表の場を提供する。そのために、高校生・大学生に聞き取りをおこなう。

**(2) 美術展企画・展示事業
太清賞公募美術展事業**

- ① 小さな絵画展では、表彰されることにさらに喜びを感じ、誇りをもって、より高みをめざしたいというモチベーションUPにつなげるようにする。そのため、佐藤太清賞巡回展時に全国で展示をおこなう等検討する。

**(3) 市展事業
美術展企画・展示事業
太清賞公募美術展事業**

- ① 展覧会等の受賞作品等を例えば駅のイベントスペースに展示するといったことや本市施設に展示する
- ② オンラインで手軽に絵画を鑑賞できるようにする。